

今なぜミニ・パブリックスなのか？



名古屋大学大学院法学研究科教授

田村哲樹

抽選によって選ばれた市民が、特定の政策課題について熟議を行うミニ・パブリックス。選挙型代表制の正統性が揺らぐ中で、ミニ・パブリックスは、政府と社会を繋ぐ新たな回路となり得るのだろうか。個人化した社会において、異なる意見を持つ「私たち」の意思決定をより良く行うための熟議民主主義の制度と、その今日的意義を考える。

はじめに

「ミニ・パブリックス」とは、特定の問題について、主に無作為抽出（抽選）の方法によって選ばれた一般の人びとが熟議するための仕組み・制度の総称である。日本でも、二〇〇〇年代半ばから「市民討議会」と呼ばれる形式で、多くの自治体で実施されるようになった。その頃をミニ・パブリックスへの関心の第一期とするならば、現在はその第二期にあたる。とりわけ、気候変動問題を中心に、多くの自治体でミニ・パブリックスが開催されるようになっていく。

本稿では、ミニ・パブリックスとは何かとその効果について概観した後で、なぜ今ミニ・パブリックスが求められるのかについて論じる。その理由として、本稿では、現代社会の「個人

化」と、今日的な意味での「選挙型代表制民主主義の機能不全」に注目する。

一 ミニ・パブリックスとは何か

「ミニ・パブリックス」とは、主に抽選（無作為抽出）によって選出された市民が、特定の政策課題について熟議を行うために設計される制度のことである。

さまざまな仕組み・制度の総称であるため、ミニ・パブリックスに期待される役割もさまざまである。たとえば、ジェイムズ・フィッシュキンによって開発された「討論型世論調査」の場合は、特定の政策課題について、熟議を通じてより「練られた世論」を生み出すことが目的である。ネッド・クロスビーが考案した「市民陪審」や、ペーター・ディーネルが考案した「プランニン

グ・セル（計画細胞会議）などの場合は、最後に参加者の間で提言書をまとめる。近年の「市民会議（citizens' assembly）」と呼ばれるものの中には、議会などの意思決定機関との制度的接続がはかられ、意思決定過程における役割が強化されているものもある。たとえば、二〇一九年から二〇二〇年にかけて開催されたフランスの気候市民会議は、そこでの議論の結果が政府によって国民投票、議会採決、または行政命令として実施されるという大統領の約束の下で設置された。最終的に、この市民会議によってまとめられた提言は、国会における新たな気候変動対策立法に結実した（三上二〇二二）。このように、ミニ・パブリックスと称されるものの中には、さまざまな形のものが含まれている。とりわけ、政治的意思決定におけるその役割の違いは、かなり大きい。そのため、ミニ・パブリックスを実施する際には、その役割についてあらかじめ注意深く検討することが重要である。

もちろん、「ミニ・パブリックス」と称されるからには、これらに共通の特徴もある。それは、抽選と熟議である。まず、抽選についてである。ミニ・パブリックスの参加者は、最も典型

たわい・つぎ
専門は政治学・政治理論。民主主義、家族、ジェンダーなどをテーマに、「政治」を日常生活の中にあるものとして考え直す研究を続けている。代表的な著作に、『熟議民主主義の困難』（ナカニシヤ出版、二〇一七年）、『日常生活と政治』（編著）（岩波書店、二〇一九年）、『政治学』（共著）（勁草書房、二〇二〇年）などがある。

的には特定の範囲の人びと（自治体ならば、当該自治体の居住者など）からの抽選による選出という形をとる（地域の事情などによって、抽選とそれ以外の選出方法を組み合わせる場合もある）。抽選は、古代アテネの都市国家などで積極的に用いられていたが、近代以降、長らく選挙の陰に隠れていた。その抽選への関心が近年復興しており、その中でもミニ・パブリックスは、抽選を用いた民主主義的な制度の典型と見なされている（ヴァン・レイブルック二〇一九・吉田二〇二二）。

なぜ抽選なのだろうか。それは、抽選が平等と「社会の縮図」の実現に適した方法だと考えられるからである。第一に、抽選は、誰でも選ばれる可能性があるという点において平等である。選挙では、「当選」のために一定の得票が必要で、そこに「選ばれる人」とそうではない人との格差が生じ得る。また、応募による参加では、応募しようという意欲のある人が優先的に選ばれることになる。どちらも、優れていたり意欲があったりする人が選ばれるのだからよいではないか、と思われるかもしれない。しかし、これは裏を返せば、特定の人だけ、一部の人だけが選ばれてしまう可能性があるということである。民主主義が「私たち」のことを「私たち」自身で決めることだとすれば、そこには、「私たち」のできるだけ多くの人びとが等しい立場で関与することができる（可能性が確保されている）ことが望ましい。抽選は、このような意味での平等を実現する手続きなのである。